

令和8年度用教科書の特設ページを展開！



各教科書の特徴紹介、紙面ダイジェスト、指導用データサンプルなどの各種資料を掲載。QRコードコンテンツも公開しています。追加資料も順次更新予定！



<https://tb.sanseido-publ.co.jp/hspr/>

SSD 三省堂

〒102-8371 東京都千代田区麹町5-7-2 TEL03-3230-9411



三省堂 高等学校英語教科書
論理・表現

生徒用教材ダイジェスト

ワークブック	・・・・・・・・・・・・・・・・	p.2
サブノート	・・・・・・・・・・・・・・・・	p.16

SSD 三省堂

※この資料は一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。
※紙面・内容は2025年4月現在（編集中）のものであり、今後変更となる場合があります。

ワークブック

■ GET READY!	pp.2～3
■ 不定詞①～②	pp.4～7
■ その他の不定詞・発展問題	pp.8～9
■ 大学入試問題A・B	pp.10～13
■ 解答・解説	pp.14～15

サブノート

■ GET READY!	pp.16～17
■ GET	pp.18～19
■ USE	pp.20～21
■ 不定詞①～②	pp.22～25
■ その他の不定詞	p.26
■ 発展問題・応用問題	pp.27～29
■ 解答・解説	pp.30～31

基本 5 文型 表現したいことを〈形〉にする：文の要素の並べ方

[教科書 p. 7]

S, V, O, C とは、英語の文の構成要素を示す略語である。S は主語 (Subject)、V は動詞 (Verb)、O は目的語 (Object)、C は補語 (Complement) を指す。それ以外に、修飾語を表す M (Modifier) がある。英語の文は〈主語 (S) + 動詞 (V)〉で成り立つのが基本である。

① We swam in the pool. (私たちはプールで泳いだ) [S+V 〈主語+動詞〉]

- 基本要素は主語 (S) と動詞 (V) のみ。
- この文型で使われる動詞は、補語を必要としない自動詞。
- 副詞の働きをする修飾語 (Modifier=M) を伴うことがある。

② My brother is a college student. (私の兄は、大学生だ) [S+V+C 〈主語+動詞+補語〉]

- 基本要素は主語 (S)、動詞 (V)、補語 (C)。
- この文型で使われる動詞は、補語を必要とする自動詞。
- 主語の状態や性質を表すものを補語 (主格補語) と呼ぶ。C は S の説明をしているので、S=C と考えることができる。

③ He bought a book yesterday. (彼は昨日、本を買った) [S+V+O 〈主語+動詞+目的語〉]

- 基本要素は主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O)。
- この文型で使われる動詞は、目的語を必要とする他動詞。

④ My uncle gave me this pen. (おじは、私にこのペンをくれた) [S+V+O+O 〈主語+動詞+目的語+目的語〉]

- 基本要素は主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O)。
- この文型で使われる動詞は、2 つの目的語を必要とする他動詞。
- 「誰に」あたる部分 (O₁) を間接目的語と呼び、「何を」(O₂) にあたる部分を直接目的語と呼ぶ。

⑤ The news made them happy. (その知らせは、彼らを幸せにした) [S+V+O+C 〈主語+動詞+目的語+補語〉]

- 基本要素は主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O)、補語 (C)。
- この文型で使われる動詞は、目的語と (目的格) 補語を必要とする他動詞。
- (目的格) 補語 (C) は目的語 (O) の状態や性質を説明している。

TRY! 次の文が 5 文型のいずれに当てはまるか、() に数字を記入しよう。

- He works at night. (1)
- Mary caught a fish yesterday. ()
- Susan became a nurse at a local hospital. ()
- The news made her sad. ()
- My father bought me a book. ()

教科書 GET READY! 〈基本 5 文型〉に関連する例文と『コーパス・クラウン総合英語 第2版』の解説・通し番号が付されています。(※基本例文に『コーパス・クラウン総合英語 第2版』の通し番号が付されていますので、合わせて参照できます。)

〈5 文型〉に関する【大学入試問題】です。

【大学入試問題】5 文型

[1] 空所に入れるのに最も適当な語句を、次の a) ~d) から 1 つずつ選びなさい。

- Your mother looked () when she heard the news. (和光大)
a) be sad b) sad c) sadly d) sadness
- This is the time to () this problem. (流通経済大)
a) discuss b) discuss about c) discuss on d) discuss into
- I gave (). (神奈川工科大)
a) the DVD my son b) my son the DVD
c) the DVD for my son d) my son to the DVD
- "Could you () me \$ 30? I have to buy that textbook over there." (亜細亜大)
a) lend b) put c) borrow d) make
- I do not know at all what () him so angry. (麻布大)
a) gave b) told c) called d) made

ヒント 4. Could you ~? 「～していただけますか」 5. not ~ at all 「少しも～ない」

[2] 日本文の意味を表すように、() 内の語句を並べ替えて英文を完成しなさい。

- 年をとるにつれて、人間はさまざまな問題を抱えていることがわかる。 (龍谷大)
As we (human beings / older / have / that / grow / we learn /,) many problems.

- それは秘密にしておくべきだと思う。[1 語不要] (西南学院大)
I think that (a secret / keep / should / it / we / to).

- どちらかの本をくれるなら、この辞書を貸してあげよう。[1 語不要] (立正大)
If you give me either book, (I / lend / this dictionary / for / will / you).

- 誰が放課後そのドアを開けっ放しにしたのですか。 (兵庫県立大)
(after / door / who / left / the / open) school?

- 学生の多くはこの問題を難しいと思うだろうか。 (朝日大)
Do (difficult / find / many / question / students / this)?

ヒント 1. human being 「人間」 3. either 「どちらかの」

【不定詞の基本的な 3 つの用法】

A) 名詞的用法 ⇒文中で主語 (S)・補語 (C)・目的語 (O) となり、「…すること」という意味。

① *It is easy to reserve a flight on the Internet.* [主語] 165

(インターネットで飛行機便を予約することは簡単だ)

*To reserve a flight on the Internet is easy. も可能だが、不定詞が文頭で主語として使われることは比較的少ない。主語が長すぎると感じられるため普通は仮主語の *it* を使った①の形をとる。このような *it* のことを「**形式主語**」、後ろにある *to reserve ...* の部分を「**真の主語**」と呼ぶ。(*it* は、*to reserve ...* の部分を指す。)

② *Her dream is to be a novelist.* (彼女の夢は小説家になることだ) [補語]

*〈SVC〉の構文で、不定詞が補語として働き、主語を説明している。

③ *I want to study abroad someday.* (いつか留学したい) [目的語] 164

**to study* 以下が *want* の目的語。

B) 形容詞的用法 ⇒形容詞として働き、(直) 前の名詞を修飾する。

① *They need someone to look after their dog while they are away.*

(彼らは留守中に犬を世話してくれる人を必要としている)

*不定詞によって修飾される名詞が、不定詞の**意味上の主語**。someone と *to look after their dog while they are away* には意味上の〈S+V〉の関係がある。

② *We have a lot of homework to do today.* (今日しなければならない宿題がたくさんある) 172

**a lot of homework* が *to do* と意味上の〈V+O〉の関係になっている。

③ *There was nobody to talk to at the party.* (パーティーでは話し相手がいなかった) 174

**nobody* が *to talk to* と意味上の〈V+O〉の関係になっている。

C) 副詞的用法 ⇒副詞として働き、叙述動詞・形容詞・副詞または文全体などを修飾する。

① *She went to the library to study for the term exams.* [目的] 179

(彼女は期末試験の勉強をするために、図書館に行った)

*不定詞は〈未来志向〉の意味合いを持つことが多く、「これからどの方向に向かうか、何を目的としているか」が *to* 以下で示される。そのため、〈目的〉を表すのになじむ表現だと言える。このとき、*to* 以下には普通〈自分の意志によって行う動作動詞〉が使われる。

② *He woke up to find all the windows open.* (彼は目を覚まして、窓がすべて開いているのに気づいた) [結果] 180

*不定詞が「～して、その結果…」という結果を表す用法。*to* には〈方向〉+〈到達〉の意味が元々あるので、*to* 以下に到達した結果が示されていると考えればよい。結果を表す不定詞の場合、*to* 以下には、〈自分の意志で行う動作動詞〉は通例使わないことに注意。

③ *We were all surprised to hear that he was successful.* [感情の原因] 184

(彼が合格したと聞いて、我々は皆驚いた)

*感情を表す形容詞や過去分詞の後で、不定詞がその感情の原因を表すことがある。

④ *You were careless to lose the wallet.* (財布をなくすとは不注意だったね) [判断の根拠] 185

*主語の部分で話者の判断を示し、その後の *to do* で〈判断の根拠〉を表す用法。

⑤ *His handwriting is difficult to read.* (彼の字は読みにくい) [形容詞の意味を限定] 187

*文の主語と *to do* 部分の動詞との間には、意味上の〈V+O〉の関係があることに注意。形式主語の *it* を使って書き換えるとこのことがわかる。⇨ *It was difficult to read his handwriting.*
(V) (O)

教科書 Focus on Grammar の基本例文と『コーパス・クラウン総合英語 第2版』の解説です。(※基本例文に『コーパス・クラウン総合英語』の通し番号が付されていますので、合わせて参照できます。)

【基本問題】不定詞①

日本文の意味を表すように、下線部を埋めなさい。

左ページの基本例文に対応させた【基本問題】です。

A) 名詞的用法

① その問題を解くのは簡単だった。

It was _____.

② 彼女の夢は女優になることだった。

Her dream was _____.

③ 私たちは3時に駅で会うことに決めた。

We _____ at three.

B) 形容詞的用法

① 彼は月に降り立った最初の人間だ。[land on]

He was _____ on the moon.

② 暗記すべき事柄 (things) がたくさんある。[memorize]

I have _____.

③ 私たちは話すことが何もなくあった。[talk]

We had _____.

C) 副詞的用法

① 彼女は医師になるために一生懸命に勉強している。

She is _____.

② 彼は成長して、有名な写真家 (photographer) になった。[grow up]

He _____.

③ 私たちは、地元のチーム (local team) が負けたと聞いてがっかりした。[disappointed]

We were _____ had lost.

④ 私たちは日本に住んで幸運だ。

We are _____.

⑤ この靴は履きやすい。[put on]

These shoes are _____.

Lesson 4 不定詞②

教科書 pp.46-47

A 不定詞の意味上の主語

- ① It is important *for us* **to obey** the rules. (規則に従うことが重要だ) 191
 *to 不定詞の前に for us という形で意味上の主語が示されている。→漠然と一般の人々のことを言っているのではなく「私たちが従うことが重要だ」と言っていることになる。
- ② It is careless *of her* **to forget** to lock the door. (ドアに鍵を掛け忘れるなんて、彼女も不注意だね) 192
 *for の代わりに of が使われている。careless のように〈人を判断・評価する形容詞が使われている場合、**<It is+形容詞+of+人+to do>**で「…するとは〈人〉は〈形容詞だ〉」という意味になる。

B SVO+to+動詞の原形

- ① I **want you to take off** the bottle cap. (あなたにボトルのふたを開けて欲しい) [希望・期待] 205
 *このタイプの動詞：**want, like, love, wish, prefer, expect** など
 want, wish など〈希望・願望〉などを表す動詞を用いた **<SVO+to do>** で、「O に…してほしい」といった意味になる。O to do には〈S+V〉の関係があることに注意。
- ② I **asked** my sister **to come** home early. (私は姉に早めに帰宅するよう頼んだ) [依頼・命令] 207
 *このタイプの動詞：**ask, tell, order, require** など
 advise, ask, order, desire など〈忠告〉〈依頼〉〈命令〉〈強い願望〉などを表す動詞を用いた **<SVO+to do>** で「O に～するように忠告する」、「O に～するように依頼する」といった意味になる。O to do には〈S+V〉の関係があることに注意。
- ③ My parents **allowed me to stay** with my friend. (両親は私が友人宅に泊まるのを許可した) [許可・強制] 208
 *このタイプの動詞：**allow, permit, force, cause, compel, enable** など
 allow や force など〈許可〉〈強制〉などを表す動詞を用いた **<SVO+to do>** で「O に～するのを許す」、「O に～するように強制する」といった意味になる。O to do には〈S+V〉の関係があることに注意。
- ④ We **thought her to be** an actress. (私たちは彼女を女優かと思った) [思考・想像] 211
 *このタイプの動詞：**think, believe, find, consider, suppose, imagine** など
 believe, think など〈思考〉や〈認識〉などを表す動詞を用いた **<SVO+to be C>** で、「O が C であると思う、考える」といった意味になる。

C SVO+動詞の原形 〈知覚動詞+O do〉

- ① I **saw them get** into a taxi in front of the station. (彼らが駅前でタクシーに乗り込むのを見た)
 [知覚動詞 (see, hear, feel など)] 212
 *〈知覚動詞 (see [hear] など) +O do〉で、「O が…するのを見る [聞く]」
- ② He **made her wait** in the café for an hour. (彼は彼女をカフェで1時間も待たせた) [使役動詞 make: 強制] 214
 *〈使役動詞 (make, let, have) +O do〉で、「O に…させる」
 *make: (O の意志に関係なく) 強制的に O に～させる。
- ③ Her parents **let her travel** alone. (彼女の両親は彼女の一人旅を許した) [使役動詞 let: 許可] 215
 *let: (O が望むことを) O がするのを許可する。
- ④ I'll **have him call** you back later. (後で彼に折り返し電話させましょう) [使役動詞 have: してもらう] 216
 *have: (当然のこととして) O に～してもらう、～させる [お金を支払うとか上下関係があるとかといった前提がある]
 cf. I **got my brother to drive** me to the station. (兄に〈頼んで〉駅まで送ってもらった)
 *「(当然) ~させる」関係にある have と違って、get は「(努力して) ~を得る; たどり着く」の意から分かるように、「(何とか相手を説得して) ~してもらう」という意味。
- ⑤ I **helped my mother (to) wash** the dishes. (母が皿洗いをするを手伝った) 217
 *〈help+O+ (to) do〉で「O が～するのを手伝う」。help O to do の形もあるが、help O do の方がよく使われる。help を使役動詞と見なす考え方もある。※受動態では必ず to 不定詞 (be helped to do)

【基本問題】不定詞②

日本文の意味を表すように、下線部を埋めなさい。

A 不定詞の意味上の主語

- ① そのパズル (puzzle) を解くのは彼には容易だった。

It was _____.

- ② 私たちを手伝ってくれて彼女は親切だった。

It was _____.

B SVO+to+動詞の原形

- ① 彼女は父親に禁煙して欲しいと思っている。[stop ~ing]

She wants _____.

- ② 母は私にもっと野菜を食べるように言った。

My mother _____.

- ③ 監督 (coach) は私たちが休憩を取ることを認めてくれた。[take a break]

The coach _____.

- ④ 私たちは彼を天才 (genius) だと思った。

We thought him _____.

C SVO+動詞の原形

- ① 私は彼が歌うのを聞いたことがない。

I _____.

- ② 母は私に食器洗いをさせた。[do/wash the dishes] 〈強制〉

My mother _____.

- ③ 父は姉に車を運転させた。〈許可〉

My father _____.

- ④ 私たちはウェイトレスに取り皿 (plate) を何枚か持って来てもらった。

We _____.

- ⑤ 彼女は母親がテーブルの上を片付けるのを手伝った。[clear the table]

She _____.

その他の不定詞

A 不定詞の否定形

- ① I have decided **not to talk** to her again. (彼女には二度と話しかけないようにしようと決めた) 193
* 不定詞の否定：否定語 not や never を不定詞の直前に置く。
- ② I put my phone on silent mode **in order not to annoy** people on the train. 195
(車内の乗客に迷惑を掛けないように、私は電話をマナーモードにした)
* 「目的」を表す不定詞を否定し「～しないように」と言いたいとき《かたく》〈in order not to do〉や《ややかたく》〈so as not to do〉を使う。not to do だけでは不可。

B 不定詞の完了形・進行形・受動態

- ① My sister *seemed to have been* popular. (妹は(それ以前に(それまでずっと))人気があったようだった) 199
* 不定詞の完了形は〈to have+過去分詞〉：述語動詞よりも以前の時を表す。
- ② The vacationers seemed **to be enjoying** the bus tour. 201
(行楽客たちは、そのバスツアーを楽しんでいるようだった)
* 不定詞の進行形は〈to be+～ing〉という形になる。
- ③ I didn't want **to be seen** by others. (私は他人に見
* 不定詞の受動態は〈to be+過去分詞〉の形になる。

C 不定詞を使ったさまざまな表現

- ① We **are to turn** in our book reports by the end of the month. (今月末までに読書感想文を提出することになっている)
* 〈be to～〉は、予定《かたく》・義務《かたく》・可能〔否定文・条件文で。通例、不定詞部分は受動態で〕・運命《文》〔通例過去形で〕・意図〔条件節で〕などを表す表現。
- ② It is **too hot to study**. (暑過ぎて勉強できない) 218
* 〈too ～ to ...〉で、「～すぎて…できない」(結果)、「…するには～過ぎる」(程度)
- ③ She was kind **enough to show** us around the campus. 220
(彼女は親切にも大学構内を案内してくれた)
* 〈形容詞〔副詞〕+enough to ...〉で「…するくらいに十分～」
- ④ I asked them **how to separate** garbage. (彼らにゴミの分別の仕方を尋ねた) 224
* 疑問詞+to ～の形で、〈how to ～〉は「どのように～すべきか、～の仕方」
※what to ～ (何を～すべきか)、when to ～ (いつ～すべきか)、where to ～ (どこで～すべきか)、which to ～ (どちらを～すべきか)、who(m) to ～ 「誰を～すべきか」、疑問詞 why を使った〈×why to do〉という言い方は普通しない)
- ⑤ Where did you **get to know** each other? (どこで君たちは知り合ったのか) 228
* get to do は、come to do とはば使い方は同じだが、「(ある状態)に到達する」という意味から「だんだん～するようになる」というニュアンスを持つ。

D 独立不定詞・代不定詞

- ① **To tell the truth**, I can't eat raw fish. (実を言うと、私は生魚が食べられないのだ) 250
* 独立不定詞とは、文全体を修飾する不定詞の慣用表現。書くときは通例、コンマで区切られる。文頭その他、文中や文末にも置かれる。
- ② My father tells me to take a science course but I don't want **to**.
(父は私に理系に進めと言うが、私はそうしたくない) 247
* 代不定詞は、動詞部分の重複を避けるための用法。to の後に“take a science course”が省略されている。

【発展問題】 その他の不定詞

日本文の意味を表すように、下線部を埋めなさい。

左ページの基本例文に対応させた【発展問題】です。

A 不定詞の否定形

- ① 先生は私たちに同じミスを繰り返さないようにと言われた。[repeat]
Our teacher told _____.
- ② 彼は寝過ぎないように目覚まし時計(alarm)をセットした。[oversleep]
He set his alarm _____.

B 不定詞の完了形・進行形・受動態

- ① 彼女は数日間、入院していたようだ。[be in the hospital]
She seems _____ for a few days.
- ② 日本経済(the Japanese economy)は回復しつつあるようだ。[recover]
The Japanese economy _____.
- ③ その先生は生徒たちに好かれているようだった。
That teacher _____ students.

C 不定詞を使ったさまざまな表現

- ① 彼らは明日、成田を出発することになっている。
They _____.
- ② 暑過ぎて、エアコンなしでは勉強できなかった。
It was _____.
- ③ 彼女は親切にもノートを貸してくれた。[enough]
She was _____.
- ④ 私たちはどこに行けばよいか分からなかった。
We did not _____.
- ⑤ 彼はだんだん減塩料理(low salt diets)を好むようになった。
He _____.

D 独立不定詞・代不定詞

- ① 言うまでもなく、学生は勉強しなければならない。
_____, students must study.
- ② 行きたくなければ、君たちは行かなくてもよい。
You don't have to go _____.

レッスン文法に関連したFocus on Grammarに掲載されている以外の「その他」の基本例文と『コーパス・クラウン総合英語 第2版』の解説です。(※基本例文に『コーパス・クラウン総合英語』の通し番号が付されていますので、合わせて参照できます。)

【大学入試問題 A】不定詞総合問題

【1】 空所に入れるのに最も適当な語句を、次の a) ~d) から 1 つずつ選びなさい。

- This telephone number is easy (). (東京電機大)
a) remembering b) remembered c) to remember d) to be remembering
- "I think I'll give Jim some advice."
"That would be unnecessary. He is () for himself." (千葉工業大)
a) old he decides b) old enough to decide
c) so old to decide d) enough old to decide
- I let my children () TV after they finish their homework. (法政大)
a) watch b) to watch c) watching d) watched
- Have you ever ()? She really has talent. (京都産業大)
a) saw her dancing b) saw her to dance
c) seen her dance d) seen her to dance

レッスンの文法項目に関連した
【大学入試問題】（総合問題）です。

【2】 次の 2 つの英文がほぼ同じ意味になるように、空所に適切な語を入れなさい。

- It is important that we read more books.
= It is important () us () read more books. (東京理科大)
- I think Jane is a very patient person and can overcome the hardship.
= I think Jane is patient () () overcome the hardship. (亜細亜大)
- The window was very dirty, so we couldn't see through it.
= The window was () dirty () see through. (佛教大)

ヒント 2. patient 「忍耐強い」 / overcome 「～を克服する」 / hardship 「苦難」

【3】 各文の下線部のうち、誤っている箇所をそれぞれ 1 つずつ選び、正しい形に直しなさい。

- Subways made ア it easier イ to people ウ in the suburbs to go エ downtown.
() (県立広島大)
- The government has to ア make efforts イ in order to ウ being successful in an
エ increasingly competitive world economy. () (関西外語大)
- The teacher had the students ア to prepare reports イ on the public pension system in
Japan and ウ trace エ its development. () (京都外語大)
- She told ア they イ not to carry ウ more than 100 dollars エ in cash.
() (国士舘大)

ヒント 1. suburb 「郊外」 2. increasingly 「ますます」 / competitive 「競争の激しい」
3. public pension system 「公的年金制度」 / trace 「(歴史・足跡などを) たどる」

【4】 日本文の意味を表すように、() 内の語句を並べ替えて英文を完成しなさい。

- 彼は、何と云えばいいのかわかりませんでした。 (大阪産業大)
(didn't / what / know / say / to / he).
- 私は何が起こったのか誰にも言わないように、彼に頼んだ。 (山梨学院大)
I (him / to / anybody / tell / not / asked) what had happened.
- 若い夫婦が家を購入するのはますます難しくなっている。 (立命館大)
It is becoming (buy / young couples / difficult / for / increasingly / to) a house.
- その問題は難しすぎて私には解けませんでした。 (中部大)
The problem was (too / me / solve / for / difficult / to).

【5】 与えられた語句を、そのままの順序で、形を変えずに用いて英訳しなさい。

- コーヒーかお茶でも買ってこようか。[Do / want / some]
- 日本は多くの分野で指導的役割を果たすよう期待されている。[play a leading part / fields]
- 風邪を引かないためには、早寝早起きをするように心がけましょう。[In / should]
- 新しい家具を私の部屋までトラックの運転手さんに運んでもらった。[had / furniture]

【出題校】 1. 愛知学院大 2. 学習院大 3. 白百合女子大 4. 日本女子大

ヒント 1. 「私に～を買って来てほしいですか」と表す。2. expect+O+to ～ 「O が～するよう期待する」
3. 「～するように心がける」 → 「～するように努める」

【6】 次の日本文の下線部(1)、(2)を英訳しなさい。

ハンガリーの小学校から高校では毎日、口頭試験があった。(1) 先生が無作為に何人かを選び、黒板の
前に立たせて説明させる。(2) 最初はみんな下手だけど、自然にできるようになる。
[ピーター・フランクル「わたしの教育再生②」『朝日新聞』より] (東北大)

(1) Teachers choose some students randomly and _____.

(2) At first they are all poor at it, but _____.

ヒント (1) 「黒板の前に立たせて説明させる」 → 「黒板の前で説明させる」 (2) naturally 「自然に」

【大学入試問題A】の
バリエーション問題です。

【大学入試問題 B】不定詞総合問題

[1] 空所に入れるのに最も適当な語句を、次の a) ~d) から 1 つずつ選びなさい。

- She always () her children do what they want to. (同志社大)
a) makes b) lets c) gets d) allows
- The introduction of the new library system made () for students to find books more easily. (青山学院大)
a) possible b) possibly c) it possible d) that possible
- Some Japanese youngsters feel that chopsticks are hard to (). (慶應大)
a) pick up food b) pick up food with c) pick up with it d) pick up food with it
- The victim is thought () a large quantity of poison by mistake. (立教大)
a) to take b) to have taken c) to be taken d) to have been taken
- I was caught in a traffic jam. I'm sorry () you waiting so long. (日本女子大)
a) to keep b) to be kept c) to have kept d) to have been kept

ヒント 3. youngster=young person 4. quantity 「量」[cf. quality: 質] / poison 「毒物」

[2] 次の 2 つの英文がほぼ同じ意味になるように、空所に適切な語を入れなさい。

- As Yoko is rich, she can buy that grand piano.
=Yoko is () () to buy that grand piano. (大阪教育大)
- You should force her to do her work.
=You should () her () her work. (武蔵野女子大)
- It is said that he won a prize in the speech contest last week.
=He is said to () () a prize in the speech contest last week. (盛岡大)
- It seemed that there was no one in the village.
=There seemed () () no one in the village. (札幌学院大)

[3] 各文の下線部のうち、誤っている箇所をそれぞれ 1 つずつ選び、正しい形に直しなさい。

- It was very careless アfor her イto mail the letters without ウputting postage stamps エon them. () (成城大)
- Families アwho are イenough fortunate to own a historic home ウmay be able to get money エto restore it. () (早稲田大)
- What a mess! Everything has been smashed アto pieces. There seems イto be a fight ウor something エhere. () (明海大)
- Some words the professor アused イin her lecture were ウimpossible to translate エthem. () (立命館大)

ヒント 2. restore 「～を修復する」 3. mess 「乱雑」 / smash 「～を粉碎する」

[4] 日本文の意味を表すように、() 内の語句を並べ替えて英文を完成しなさい。

- どの外国語を選択すればいいのか迷ってしまう。 (滋賀県立大)
I'm at (which / to / loss / a / foreign language / choose).

- その家は 6 人が住むには狭すぎます。 (中部大)
The house is (to / six people / for / in / too / live / small).

- 私はそれを書いて残しておくほど愚かではない。 (明海大)
I'm not so (in writing / put / stupid / to / as / it).

- これらのリングを入れて行くものを何かくれませんか。 (早稲田大)
Could you give (something / carry / in / these apples / me / to)?

ヒント 1. at a loss 「途方に暮れて」 3. stupid=foolish; silly

[5] 与えられた語句を、そのままの順序で、形を変えずに用いて英訳しなさい。

- 他にすることがないんだ。[don't / else] (早稲田大)

- 私は、彼を怒らせるようなことは、一切言わないように気をつけた。
[careful / anything / angry] (早稲田大)

- 彼がその子を救おうと川に飛び込んだのは、本当に勇敢だった。[It was / jump] (明治学院大)

- この電話番号は幼い子供にも覚えやすい。[This telephone number / young] (東京電機大)

- 彼は親切にも僕を駅まで見送りに来てくれた。[enough / see / off] (札幌大)

[6] 次の日本文の下線部(1)、(2)を英訳しなさい。 (富山大)

そのビデオゲームが子供たちに人気がある主な理由の一つは、⁽¹⁾その遊び方がとても簡単であるということだ。⁽²⁾やり方を覚えるのに、せいぜい 2 時間しかかからない。もっとも、子供が熱中しすぎるのではないかと心配する親も少なくない。

- _____
- _____

ヒント (2) take 「(時間を) 要する」

基本 5 文型 表現したいことを〈形〉にする：文の要素の並べ方

[教科書 p. 7]

S, V, O, C とは、英語の文の構成要素を示す略語である。S は主語 (Subject)、V は動詞 (Verb)、O は目的語 (Object)、C は補語 (Complement) を指す。それ以外に、修飾語を表す M (Modifier) がある。英語の文は〈主語 (S) + 動詞 (V)〉で成り立つのが基本である。

① We swam in the pool. (私たちはプールで泳いだ) [S+V 〈主語+動詞〉]
S V

- 1) 基本要素は主語 (S) と動詞 (V) のみ。
- 2) この文型で使われる動詞は、補語を必要としない自動詞。
- 3) 副詞の働きをする修飾語 (Modifier=M) を伴うことがある。

② My brother is a college student. (私の兄は、大学生だ) [S+V+C 〈主語+動詞+補語〉]
S V C

- 1) 基本要素は主語 (S)、動詞 (V)、補語 (C)。
- 2) この文型で使われる動詞は、補語を必要とする自動詞。
- 3) 主語の状態や性質を表すものを補語 (主格補語) と呼ぶ。
C は S の説明をしているので、S=C と考えることができる。

③ He bought a book yesterday. (彼は昨日、本を買った) [S+V+O 〈主語+動詞+目的語〉]
S V O

- 1) 基本要素は主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O)。
- 2) この文型で使われる動詞は、目的語を必要とする他動詞。

④ My uncle gave me this pen. (おじは、私にこのペンをくれた) [S+V+O+O 〈主語+動詞+目的語+目的語〉]
S V O O

- 1) 基本要素は主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O)。
- 2) この文型で使われる動詞は、2 つの目的語を必要とする他動詞。
- 3) 「誰に」あたる部分 (O₁) を間接目的語と呼び、「何を」(O₂) にあたる部分を直接目的語と呼ぶ。

⑤ The news made them happy. (その知らせは、彼らを幸せにした) [S+V+O+C 〈主語+動詞+目的語+補語〉]
S V O C

- 1) 基本要素は主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O)、補語 (C)。
- 2) この文型で使われる動詞は、目的語と (目的格) 補語を必要とする他動詞。
- 3) (目的格) 補語 (C) は目的語 (O) の状態や性質を説明している。

TRY! 次の文が 5 文型のいずれに当てはまるか、() に数字を記入しよう。

1. He works at night. (1)
2. Mary caught a fish yesterday. ()
3. Susan became a nurse at a local hospital. ()
4. The news made her sad. ()
5. My father bought me a book. ()

教科書 GET READY! 〈基本5文型〉に関連する例文と『コーパス・クラウン総合英語 第2版』の解説・通し番号が付されています。(※基本例文に『コーパス・クラウン総合英語 第2版』の通し番号が付されていますので、合わせて参照できます。)

〈5文型〉に関する【基本問題】です。

【基本問題】 5 文型

[1] 日本文の意味を表すように、() 内の語句を並べ替えなさい。

1. 彼の説明は私には合理的なように思われた。

His explanation (me / reasonable / sounded / to).

2. 彼女はアドバイスを求めて彼に長文の手紙を書いた。

She (a long letter / advice / for / him / to / wrote).

3. その辞書を私のところに持って来てもらえますか。

(bring / can / dictionary / me / that / you)?

4. トイレを使う時は、ドアを開けっ放しにするな。

(don't / door / leave / open / the) when you use the bathroom.

[2] 日本文の意味を表すように、下線部を埋めなさい。

1. 彼らはその知らせに驚いた様子だった。

They _____.

2. 彼女は私にコーヒーを 1 杯入れてくれた。

She _____.

3. 彼は私に質問を 1 つした。

He _____.

4. どの親も自分の子供たちを幸せにしたいと思っている。

Every parent _____.

[3] 次の日本文を英語にきなさい。

1. 彼は父親がベンチで寝ているのに気付いた。 (大阪学院大)

2. 英語を教えてくれるなら、お返しに日本語を教えてあげよう。 (大阪学院大)

3. 私には英語で意志の疎通を図るのは難しい。 (日本女子大)

4. それが君とどんな関係があるというんですか? [What で始めて] (宮崎大)

5. スコット (Scott) が怒るのもきわめて自然なことだった。 (福岡女子大)

ヒント

1. reasonable
「合理的な」

4. leave+O+C
「O を C のままにする」
bathroom
「トイレ」

2. make 「(コーヒーを) 入れる」
3. ask 「(質問を) する」
4. make+O+C
「O を C にする」

1. find+O+C
「O が C であるのに気付く」

2. in return
「お返しに」

3. communicate
「意思の疎通をする」

4. have something to do with ~
「~と関係がある」

5. natural 「自然な; 当然な」

Lesson 4 Saving Our Planet



Understanding the Issue

教科書 p.42

- ① 日本語を参考に () に適語を入れよう。..... 文法・表現▶
- その政党は、環境問題に対処するために新しい政策を導入した。
The party introduced a new policy () (a) the environmental issues.
 - 私は環境研究者になりたい。
I want () () an environmental researcher.
- ② 日本語を参考に () に適語を入れよう。..... F-File p. 50 ▶
- 来週の日曜日にボランティア活動しよう。
() do volunteer work next Sunday.
 - 世界中のリサイクル率を比較してみませんか。
() () () compa world?
 - 日本は年間 200 億本以上のペットボトルを消費しているというのが事実です。
() () () that Japan consumes over 20 billion PET bottles.
 - 問題は、それらが正確に分別されないとリサイクルが難しいということです。
() () () that if they are not accurately separated, recycling becomes difficult.

教科書Understanding the Issue
に関連した「練習問題」です。
(大問1：文法・表現に関連。
大問2：F-File (課末Language
Files) に関連。)

Words & Phrases

<input type="checkbox"/> ごみを全く出さない	produce no (w)
<input type="checkbox"/> [否定文で] 少しも (…ない)、全然 (…ない)	at (a)
<input type="checkbox"/> ~を分別する	(s)
<input type="checkbox"/> ごみ	(g)
<input type="checkbox"/> ~をリサイクルする	(r)
<input type="checkbox"/> 資源	(r)
<input type="checkbox"/> ~を再利用する	(r)
<input type="checkbox"/> 大災害	(d)

Understanding the Issueから
ピックアップした語彙問題です。

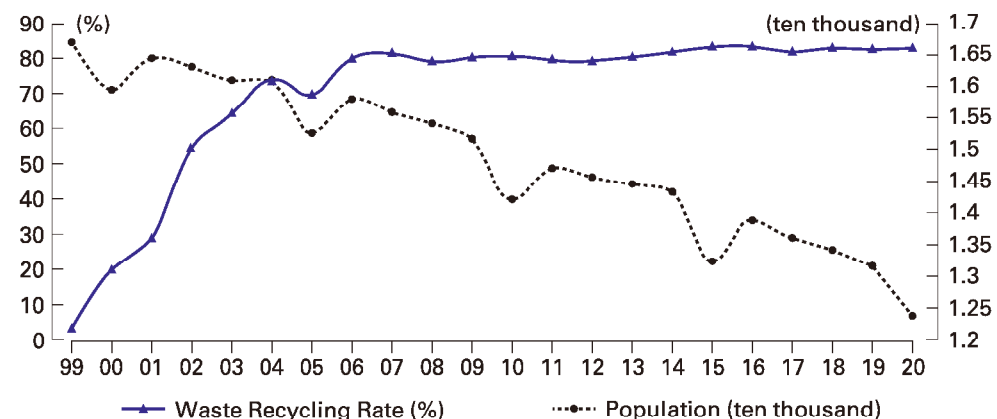
Thinking with Data

教科書 p.43

- グラフから情報を読み取り、TF で答えよう。

Thinking with Dataの図表を使用
した、教科書とは異なるTF問題です。

Changes in Osaki Town's Waste Recyc
(1999-2020)



【出典】 Garbage Recycling Rate 1999-2020 ※ 人口データ：国税調査・住民基本台帳人口（総数）より

- This graph shows the total amount of waste in Osaki Town. ()
- The waste recycling rate and the population in Osaki Town have not changed in twenty years. ()
- The waste recycling rate exceeded 50 percent in 2002. ()
- The waste recycling rate increased dramatically between 2005 and 2020. ()

Expressing Yourself

- リサイクル率を上げるために必要な取り組みについて、自分の考えを書いてみよう。

[例] It is important for us to sort v

It is _____ to _____

教科書とは異なる例文で提示した練習問題です。
Vocabulary & Expressionsでは活動のためのヒント
として、フレーズを付しています。

Vocabulary & Expressions

- ▶ 教育による環境への啓蒙活動を行う
promote environmental awareness through education
- ▶ リサイクル施設を増設[改善]する
increase [improve] recycling facilities
- ▶ リサイクル製品を普及させる
promote recycled products
- ▶ 政府[地方自治体]による規制を強化する
strengthen government [local govern-ment] regulations
- ▶ 生産者の責任を明確にする
define producer responsibilities

USE → INPUT

教科書 p.44

① 日本語を参考に () に適語を入れよう。…………… 文法・表現▶

1. その町が災害の復興のためには、町がインフラを改善することが必要だった。
It was necessary () the town () () its infrastructure for recovery from the disaster.
2. 住民たちは、台風から町を守るために木々を植えた。
The residents planted trees () () the town from typhoons.

② 日本語を参考に () に適語を入れよう。…………… D-File p. 50 ▶

1. まずは問題の提示から始めます。
() start () presenting the is
2. 現在の問題について説明させてください。
() () explain the current pr
3. 何かコメントはありますか？
() () () () comments?
4. 彼の意見に賛成ですか、反対ですか？
() () () or () () his opinion?

教科書のモデル文に関連した
「練習問題」です。
(大問1：文法・表現に関連。
大問2：D-File(課末Language
Files)に関連。)

Words & Phrases

<input type="checkbox"/> 地球温暖化	(g) (w)
<input type="checkbox"/> 深刻な	(s)
<input type="checkbox"/> 環境問題	(e) problems
<input type="checkbox"/> 北極	the (A)
<input type="checkbox"/> 北極グマ、シロクマ	(p) bear
<input type="checkbox"/> ～を減少させる	(r)
<input type="checkbox"/> 二酸化炭素	(c) (d)
<input type="checkbox"/> 排出量	(e)
<input type="checkbox"/> ～を吸収する	(a)
<input type="checkbox"/> 大気	(a)

USEのモデル文からピックアップ
した語彙問題です。

Practice

OUTPUT →

● 次のエッセイ・プラン①～③に従って、英語で書いてみよう。

Problem
問題の提起

- ① 私は、プラスチックごみによる環境問題には次の解決策があると思う。

Measures to take
何をすべきか

- ② 私たちは、買い物の際にビニール袋の代わりにエ
-
- ストローの代わりに紙の代替品を使用したりするこ

Solution
解決策

- ③ 何よりもまず、私たちがプラスチック製品を使用するときには、代替品があるのか、あるいはそ
-
- もそもそれが(プラスチック製品が)本当に必要なのかを考える必要がある。

Organizingの活動をスムーズに
行うためのエッセイ・プランの
練習を行うコーナーです。

ヒント 問題 issues 解決策 solutions 代替 alternatives それがなくても生きていける can live without them

Organizing

教科書 p.45

● 環境問題とその解決策について、話の構成を考えて、英語で原稿を作成しよう。

Problem
問題の提起

- ① I think _____ is a serious environmental problem.

Measures to take
何をすべきか

- ② We need to _____

Solution
解決策

- ③ First of all, we should _____

Organizingの活動のための
スペースです。Vocabulary &
Expressionsでは活動のための
ヒントとして、フレーズを付し
ています。

Vocabulary & Expressions

- ▶ 食品ロスを削減する
reduce food loss and waste
- ▶ 化石燃料の使用を減らす
use less fossil fuel
- ▶ エコツーリズムを推進する
promote ecotourism
- ▶ 再生可能エネルギーを使用する
use renewable energy
- ▶ ごみ問題に取り組む
tackle [work on] the garbage problem
- ▶ 持続可能なファッションを普及させる
promote sustainable fashion
- ▶ 自然保護区を設置する
establish sanctuaries [nature reserves]
- ▶ 環境への負荷を軽減する製品を開発する
develop products with less environmen-
tal impact

Lesson 4

Focus on Grammar 不定詞①

教科書 pp. 41-50

【不定詞の基本的な3つの用法】

A) 名詞的用法 ⇒文中で主語 (S)・補語 (C)・目的語 (O) となり、「…すること」という意味。

① *It is easy to reserve a flight on the Internet.* [主語] 165

(インターネットで飛行機便を予約することは簡単だ)

*To reserve a flight on the Internet is easy. も可能だが、不定詞が文頭で主語として使われることは比較的少ない。主語が長すぎると感じられるため普通は仮主語の *it* を使った①の形をとる。このような *it* のことを「**形式主語**」、後ろにある *to reserve ...* の部分を「**真の主語**」と呼ぶ。(*it* は、*to reserve ...* の部分を指す。)

② *Her dream is to be a novelist.* (彼女の夢は小説家になることだ) [補語] 167

*〈SVC〉の構文で、不定詞が補語として働き、主語を説明している。

③ *I want to study abroad someday.* (いつか留学したい) [目的語] 169

* *to study* 以下が *want* の目的語。

B) 形容詞的用法 ⇒形容詞として働き、(直) 前の名詞を修飾する。

① *They need someone to look after their dog while they are away.*

(彼らは留守中に犬を世話してくれる人を必要としている)

*不定詞によって修飾される名詞が、不定詞の意味上の主語。someone と *to look after their dog while they are away* には意味上の〈S+V〉の関係がある。

② *We have a lot of homework to do today.* (今日しなければならない宿題がたくさんある) 172

* *a lot of homework* が *to do* と意味上の〈V+O〉の関係になっている。

③ *There was nobody to talk to at the party.* (パーティーでは話し相手がいなかった) 174

* *nobody* が *to talk to* と意味上の〈V+O〉の関係になっている。

C) 副詞的用法 ⇒副詞として働き、叙述動詞・形容詞・副詞または文全体などを修飾する。

① *She went to the library to study for the term exams.* [目的] 179

(彼女は期末試験の勉強をするために、図書館に行った)

*不定詞は〈未来志向〉の意味合いを持つことが多く、「これからどの方向に向かうか、何を目的としているか」が *to* 以下で示される。そのため、〈目的〉を表すのになじむ表現だと言える。このとき、*to* 以下には普通〈自分の意志によって行う動作動詞〉が使われる。

② *He woke up to find all the windows open.* (彼は目を覚まして、窓がすべて開いているのに気づいた) [結果] 180

*不定詞が「～して、その結果…」という結果を表す用法。*to* には〈方向〉+〈到達〉の意味が元々あるので、*to* 以下に到達した結果が示されていると考えればよい。*to* 以下には、〈自分の意志で行う動作動詞〉は通例使わないことに注意。

③ *We were all surprised to hear that he was successful.* [感情の原因] 184

(彼が合格したと聞いて、我々は皆驚いた)

*感情を表す形容詞や過去分詞の後で、不定詞がその感情の原因を表すことがある。

④ *You were careless to lose the wallet.* (財布をなくすとは不注意だったね) [判断の根拠] 185

*主語の部分で話者の判断を示し、その後の *to do* で〈判断の根拠〉を表す用法。

⑤ *His handwriting is difficult to read.* (彼の字は読みにくい) [形容詞の意味を限定] 187

*文の主語と *to do* 部分の動詞との間には、意味上の〈V+O〉の関係があることに注意。形式主語の *it* を使って書き換えるとなることがわかる。⇨ *It was difficult to read his handwriting.*
(V) (O)

教科書Focus on Grammarの基本例文と『コーパス・クラウン総合英語 第2版』の解説です。(※基本例文に『コーパス・クラウン総合英語』の通し番号が付されていますので、合わせて参照できます。)

【基本問題】不定詞①

日本文の意味を表すように、空所に適語を入れなさい。

左ページの基本例文に対応させた【基本問題】です。

A) 名詞的用法

① その問題を解くのは簡単だった。

It was () () () the problem.

② 彼女の夢は女優になることだった。

Her dream () () () an actress

③ 私たちは3時に駅で会うことに決めた。

We (d) () () at the station at three.

B) 形容詞的用法

① 彼は月に降り立った最初の人間だ。[land on]

He was () () man () () on the moon.

② 暗記すべき事柄 (things) がたくさんある。

I have a lot of () () (m).

③ 私たちは話すことが何もなかった。

We had nothing () (t) about.

C) 副詞的用法

① 彼女は医師になるために一生懸命に勉強している。

She is studying () () () a doctor.

② 彼は成長して、有名な写真家 (photographer) になった。

He (g) () () () a famous photographer.

③ 私たちは、地元のチーム (local team) が負けたと聞いてがっかりした。

We were disappointed () () () the local team had lost.

④ 私たちは日本に住んで幸運だ。

We are lucky () () () Japan.

⑤ この靴は履きやすい。

These shoes are () () (p) ().

Lesson 4

Focus on Grammar 不定詞②

教科書 pp. 48-49

A 不定詞の意味上の主語

- ① It is important *for us* **to obey** the rules. (規則に従うことが重要だ) 191
 *to 不定詞の前に for us という形で意味上の主語が示されている。→漠然と一般の人々のことを言っているのではなく「私たちが従うことが重要だ」と言っていることになる。
- ② It is careless *of her* **to forget** to lock the door. (ドアに鍵を掛け忘れるなんて、彼女も不注意だね) 192
 *for の代わりに of が使われている。careless のように〈人を判断・評価する形容詞が使われている場合、**<It is+形容詞+of+人+to do>**で「…するとは〈人〉は〈形容詞だ〉」という意味になる。

B SVO+to+動詞の原形

- ① I **want you to take off** the bottle cap. (あなたにボトルのふたを開けて欲しい) [希望・期待] 205
 *このタイプの動詞：**want, like, love, wish, prefer, expect** など
 want, wish など〈希望・願望〉などを表す動詞を用いた **<SVO+to do>** で、「O に…してほしい」といった意味になる。O to do には〈S+V〉の関係があることに注意。
- ② I **asked my sister to come** home early. (私は姉に早めに帰宅するよう頼んだ) [依頼・命令] 207
 *このタイプの動詞：**ask, tell, order, require** など
 advise, ask, order, desire など〈忠告〉〈依頼〉〈命令〉〈強い願望〉などを表す動詞を用いた **<SVO+to do>** で「O に～するように忠告する」、「O に～するように依頼する」といった意味になる。O to do には〈S+V〉の関係があることに注意。
- ③ My parents **allowed me to stay** with my friend. (両親は私が友人宅に泊まるのを許可した) [許可・強制] 208
 *このタイプの動詞：**allow, permit, force, cause, compel, enable** など
 allow や force など〈許可〉〈強制〉などを表す動詞を用いた **<SVO+to do>** で「O に～するのを許す」、「O に～するように強制する」といった意味になる。O to do には〈S+V〉の関係があることに注意。
- ④ We **thought her to be** an actress. (私たちは彼女を女優かと思った) [思考・想像] 211
 *このタイプの動詞：**think, believe, find, consider, suppose, imagine** など
 believe, think など〈思考〉や〈認識〉などを表す動詞を用いた **<SVO+to be C>** で、「O が C であると思う、考える」といった意味になる。

C SVO+動詞の原形 〈知覚動詞+O do〉

- ① I **saw them get** into a taxi in front of the station. (彼らが駅前でタクシーに乗り込むのを見た)
 [知覚動詞 (see, hear, feel など)] 212
 *〈知覚動詞 (see [hear] など)+O do〉で、「O が…するのを見る [聞く]」
- ② He **made her wait** in the café for an hour. (彼は彼女をカフェで1時間も待たせた) [使役動詞 make: 強制] 214
 *〈使役動詞 (make, let, have)+O do〉で、「O に…させる」
 *make: (O の意志に関係なく) 強制的に O に～させる。
- ③ Her parents **let her travel** alone. (彼女の両親は彼女の一人旅を許した) [使役動詞 let: 許可] 215
 *let: (O が望むことを) O がするのを許可する。
- ④ I'll **have him call** you back later. (後で彼に折り返し電話させましょう) [使役動詞 have: してもらう] 216
 *have: (当然のこととして) O に～してもらう、～させる [お金を支払うとか上下関係があるとかといった前提がある]
 cf. I **got my brother to drive** me to the station. (兄に〈頼んで〉駅まで送ってもらった)
 *「(当然) ~させる」関係にある have と違って、get は「(努力して) ~を得る; たどり着く」の意から分かるように、「(何とか相手を説得して) ~してもらう」という意味。
- ⑤ I **helped my mother (to) wash** the dishes. (母が皿洗いをするのを手伝った) 217
 *〈help+O+ (to) do〉で「O が～するのを手伝う」。help O to do の形もあるが、help O do の方がよく使われる。help を使役動詞と見なす考え方もある。※受動態では必ず to 不定詞 (be helped to do)

【基本問題】 不定詞②

日本文の意味を表すように、下線部を埋めなさい。

A 不定詞の意味上の主語

- ① そのパズルを解くのは彼には容易だった。
 It was easy () () () () the puzzle.
- ② 私たちを手伝ってくれて彼女は親切だった。
 It was kind () () () () us.

B SVO+to+動詞の原形

- ① 彼女は父親に禁煙して欲しいと思っている。[stop~ing]
 She () her father () () () .
- ② 母は私にもっと野菜を食べるように言った。
 My mother () me () () more vegetables.
- ③ 監督は私たちが休憩を取ることを認めてくれた。
 The coach () us () (t) a break.
- ④ 私たちは彼を天才だと思った。
 We () him () () a genius.

C SVO+動詞の原形

- ① 私は彼が歌うのを聞いたことがない。
 I have never () () () .
- ② 母は私に食器洗いをさせた。〈強制〉
 My mother () () (w) the dishes.
- ③ 父は姉に車を運転させた。〈許可〉
 My father () () () () the car.
- ④ 私たちはウェイトレスに取り皿を何枚か持って来てもらった。
 We () waitress () some plates.
- ⑤ 彼女は母親がテーブルの上を片付けるのを手伝った。
 She () her mother () () the table.

その他の不定詞

A 不定詞の否定形

- ① I have decided **not to talk** to her again. (彼女には二度と話しかけないようにしようと決めた) 193
* 不定詞の否定：否定語 not や never を不定詞の直前に置く。
- ② I put my phone on silent mode **in order not to annoy** people on the train. 195
(車内の乗客に迷惑を掛けないように、私は電話をマナーモードにした)
* 「目的」を表す不定詞を否定し「～しないように」と言いたいとき《かたく》〈in order not to do〉や《ややかたく》〈so as not to do〉を使う。not to do だけでは不可。

B 不定詞の完了形・進行形・受動態

- ① My sister **seemed to have been** popular. (妹は(それ以前に(それまでずっと))人気があったようだった) 199
* 不定詞の完了形は〈to have+過去分詞〉：述語動詞よりも以前の時を表す。
- ② The vacationers seemed **to be enjoying** the bus tour. 201
(行楽客たちは、そのバスツアーを楽しんでいるようだった)
* 不定詞の進行形は〈to be+～ing〉という形になる。
- ③ I didn't want **to be seen** by others. (私は他人に見
* 不定詞の受動態は〈to be+過去分詞〉の形になる。

C 不定詞を使ったさまざまな表現

- ① We **are to turn** in our book reports by the end of the month. (今月末までに読書感想文を提出することになっている)
* 〈be to ～〉は、予定《かたく》・義務《かたく》・可能〔否定文・条件文で。通例、不定詞部分は受動態で〕・運命《文》〔通例過去形で〕・意図〔条件節で〕などを表す表現。
- ② It is **too hot to study**. (暑過ぎて勉強できない) 218
* 〈too ～ to ...〉で、「～過ぎて…できない」(結果)、「…するには～過ぎる」(程度)
- ③ She was kind **enough to show** us around the campus. 220
(彼女は親切にも大学構内を案内してくれた)
* 〈形容詞〔副詞〕+enough to ...〉で「…するくらいに十分～」
- ④ I asked them **how to separate** garbage. (彼らにゴミの分別の仕方を尋ねた) 224
* 疑問詞+to ～の形で、〈how to～〉は「どのように～すべきか、～の仕方」
※what to ～ (何を～すべきか)、when to ～ (いつ～すべきか)、where to ～ (どこで～すべきか)、which to ～ (どちらを～すべきか)、who(m) to ～ 「誰を～すべきか」、疑問詞 why を使った〈×why to do〉という言い方は普通しない)
- ⑤ Where did you **get to know** each other? (どこで君たちは知り合ったのか) 228
* get to do は、come to do とはば使い方は同じだが、「(ある状態)に到達する」という意味から「だんだん～するようになる」というニュアンスを持つ。

D 独立不定詞・代不定詞

- ① **To tell the truth**, I can't eat raw fish. (実を言うと、私は生魚が食べられないのだ) 250
* 独立不定詞とは、文全体を修飾する不定詞の慣用表現。書くときは通例、コンマで区切られる。文頭その他、文中や文末にも置かれる。
- ② My father tells me to take a science course but I don't want **to**.
(父は私に理系に進めと言うが、私はそうしたくない) 247
* 代不定詞は、動詞部分の重複を避けるための用法。to の後に“take a science course”が省略されている。

【発展問題】 その他の不定詞

日本文の意味を表すように、空所に適語を入れなさい。

左ページの基本例文に対応させた【発展問題】です。

A 不定詞の否定形

- ① 先生は私たちに同じミスを繰り返さないようにと言われた。[repeat]
Our teacher told us () () () the same mistakes.
- ② 彼は寝過ぎないように目覚まし時計(alarm)をセットした。
He set his alarm () () () () oversleep.

B 不定詞の完了形・進行形・受動態

- ① 彼女は数日間、入院していたようだ。
She seems () () () in the hospital for a few days.
- ② 日本経済(the Japanese economy)は回復しつつあるようだ。[recover]
The Japanese economy () () () recovering.
- ③ その先生は生徒たちに好かれているようだった。
That teacher () () () liked by his students.

C 不定詞を使ったさまざまな表現

- ① 彼らは明日、成田を出発することになっている。
They () () () Narita tomorrow.
- ② 暑過ぎて、エアコンなしでは勉強できなかった。
It was () () for me () () without an air conditioner.
- ③ 彼女は親切にもノートを貸してくれた。[enough]
She was () () () () me her notebook.
- ④ 私たちはどこに行けばよいかわからなかった。
We did not know () () ().
- ⑤ 彼はだんだん減塩料理(low salt diets)を好むようになった。
He () () () low salt diets.

D 独立不定詞・代不定詞

- ① 言うまでもなく、学生は勉強しなければならない。
() () (), students must study.
- ② 行きたくなければ、君たちは行かなくてもよい。
You don't have to go if you () () ().

レッスン文法に関連したFocus on Grammarに掲載されている以外の「その他」の基本例文と『コーパス・クラウン総合英語 第2版』の解説です。(※基本例文に『コーパス・クラウン総合英語』の通し番号が付されていますので、合わせて参照できます。)

【応用問題 A】不定詞

レッスンの文法項目に関連した【応用問題】です。大問3は大学入試問題です。

① 日本文の意味を表すように、() 内の語句を並べ替えなさい。

1. 彼を驚かさないように、そのことは秘密にしておいた。
We kept it a secret (him / in / not / order / surprise / to).
We kept it a secret _____.
2. 彼女はどこに座ったらよいか分からなかった。
She (did / know / not / sit / to / where).
She _____.
3. 選択肢 (option) が多過ぎて、一つに決められなかった。
There were (choose / many / one / options / to / too).
There were _____.
4. 私たちはまだ運転免許を取得できる年齢ではない。
We are (a driver's license / enough / have / not / old / to).
We are _____.

② 日本文の意味を表すように、下線部を埋めなさい。

1. 姉は私に携帯電話を触れさせてくれない。
My sister _____.
2. 彼らは呼鈴 (doorbell) が鳴るのを聞いた。
They _____.
3. 私は父に、健康のためにタバコをやめてもらうように頼んだ。 (学習院大)
I asked my father _____.
4. 今はインターネットのおかげで外国にいる友人と連絡をとるのが楽になりました。 (学習院大)
Now, thanks to the Internet, it is _____.

③ 次の日本文を英語にきなさい。

1. 何か温かい飲み物をください。温かければ何でもいいから。 (愛知教育大)
_____.
2. 仕事をすばやく済ますためには、携帯電話は欠かせないように思われる。 (青山学院大)
_____.
3. 他人の悪口を言うのは失礼だ。[It で始めて] (学習院大)
_____.
4. 彼女の両親は彼女がヨーロッパを一人で旅行することを許した。
[Her parents で始めて] (学習院大)
_____.

【応用問題 B】不定詞

【応用問題A】のバリエーション問題です。

① 日本文の意味を表すように、() 内の語句を並べ替えなさい。

1. この番号に電話していただけますか。
Would you (be / call / enough / kind / number / this / to)?
Would you _____.
2. 姉に宿題を手伝ってもらった。
I (got / help / me / my homework / my sister / to / with).
I _____.
3. そのような話は信じ難い。
(a / believe / hard / is / story / such / to).
_____.
4. その件 (matter) に関しては黙っている方が賢明だと思った。
I (better / it / keep silent / thought / to) about that matter.
_____.

② 日本文の意味を表すように、下線部を埋めなさい。

1. その応接室はとても暑くて上着 (jacket) を着ていられなかった。
It was too _____ in that reception room.
2. どのようにして彼らを知るようになりましたか。
How _____?
3. そんなことをするとは君も愚かだったね。
It was _____.
4. お待たせして大変申し訳ございません。
I am terribly sorry _____.

③ 次の日本文を英語にきなさい。

1. あそこにいる老人は、若い頃は優れた野球の選手だったそうです。
[The old man over there に続けて] (愛知学院大)
_____.
2. どの辞書を買ったらいいか、その学生はなかなか決められませんでした。
[The student had difficulty に続けて] (学習院大)
_____.
3. 何か暖かい飲み物がありますか。 (札幌学院大)
_____.
4. 子供のための英語教室は、彼らが英語や英語国文化 (English-speaking cultures) について学ぶのを楽しむための機会である。 (群馬大)
_____.